

Kirari

看護情報誌 きらり

特集 大阪府看護協会

Leader's Voice あの人の聞く

大阪府看護協会会長 高橋弘枝さん

ココが知りたい 大阪府看護協会の現場

労働環境支援事業部／コロナ対策本部／教育研修部

Pick up！ ニュース

大阪府看護協会のオフィスで「シーエルファイン™」を使用

あの人に聞く

大阪府看護協会会長

高橋弘枝さん

「やらなあかんこと」には手を挙げる
看護に新しい道を切り拓いていきたい

大阪府看護協会では、
さまざまな先進的取り組みを展開しています。
そこには、会長である高橋弘枝さんの
「看護職をもっと理解してほしい」という
強い思いがあります。
高橋さんにお話をうかがいました。



Profile●プロフィール

大阪大学医療技術短期大学部（現在廃止）卒業後、1981年大阪厚生年金病院（現JCHO大阪病院）入職。1988年大阪厚生年金看護専門学校専任教員、1997年同校教務部長。1999年大阪厚生年金病院看護婦長、2010年同院看護部長。2014年JCHO大阪病院看護部長。2015年4月～2016年3月独立行政法人地域医療機能推進機構本部企画経営部医療副部長、2016年6月より現職。認定看護管理者。

専門職としての看護職を
アピールしていきたい

学生時代の私にとって、看護職は数ある選択肢の1つでした。進路を決めかねているときに、テレビ番組で助産師の仕事を見てお産に関心を持ち、看護を学ぶことにしたのです。私の看護は、学問としての興味から始まりました。

卒業後は大阪市内の地域中核病院に勤務。そして看護教育に携った後、管理職として臨床に復帰しましたが、その過程で、看護職が自立した専門職であるにもかかわらず、社会的にそうはみられていないと感じました。そして、看護職の質の高さ、素晴らしさを広くアピールすべきだと思うようになりました。この思いはずっと私の芯にあって、現在の自分のなかにも息づいていると思います。

やらなければという思いが
さまざまな事業につながった

誰かがやらなければスタートしない「誰かがやらなあかん」というときは、必ず手を挙げて、やってみるようにしています。ですから、これまで本会が行ってきた事業は、そうして始まったものが少なくありません。急を要する場面も多く、私自身も走り回りましたが、スタッフたちがよく協力し、頑張ってくれたからできたのだと思います。

2020年は新型コロナウイルス感染症という新たな脅威にさらされました。国民一人ひとりが現在もなおそれぞれに大変な思いをしています。そして、何よりも医療従事者には重い役割が課せられていま

す。感染が確認された当初から、私は看護職には専門職だからこそできること、やらなければならないことがあると考えていました。ですから、大阪府が宿泊療養施設を設置する際には、看護職の派遣と人員のコントロールは本会に任せてほしいと手を挙げました。さらに、大阪コロナ重症センター開設に際しては、勤務する看護職の募集・派遣にも協力し、予定していた数のスタッフの確保につなげました。

スペシャリストの育成についても、いち早く手を挙げてスタートさせたものがいくつかあります。旅行者や長期滞在者など国内にいる外国人の方々に対する看護提供を専門的に学ぶ日本国際看護師養成研修、認定看護師や専門看護師に対する特定行為研修、さらに認定看護師の分野再編により誕生したクリティカルケア認定看護師教育課程も実施しています。いずれも看護職の専門性を高めるために行っていますが、これはスペシャリストとしての看護職の存在感を示すことにもつながっていくと思っています。

現場の看護職のため ポジティブな姿勢を忘れずに

このように、必要性を感じたら、看護職能団体として道を切り拓いていくという思いをもって、さまざまな事業に取り組んできました。現場で医療に相對している看護職のため、本会は何ができるか、何をすべきかを常に考えるようにしています。私自身、副看護部長や看護部長時代には、これまでの固定概念にとらわれず、新しい取り組みに挑戦してきまし



た。そうすることで、看護職が働きやすい、一人ひとりが活躍できる現場にしたいと考えてきました。この姿勢が今につながっているのだと思います。

新しいことをやるときは、リスクをきちんと想定しながら、まずは1歩踏み出す勇気をもつことが大切。そうすることでみえる景色が変わってくるんです。すると気持ちも上がります。やるからにはワクワクしながらやりたいですね。これは、個人のチャレンジでも同じではないかと思っています。

これからの大阪府看護協会としては、今まで切り拓いてきたことをいかに継続していくかが重要。続けていける仕組みを作っていかなければと考えています。同時に、これからもポジティブな姿勢を忘れず、「やらなあかんこと」にはどんどん取り組んでいきたいと思っています。



大賞受賞の副賞であるブローチ(右)

第5回「大阪サクヤヒメ大賞」を受賞

高橋さんは、大阪商工会議所が主催する「大阪サクヤヒメ表彰」で大賞に選ばれました。この表彰は、今後さらなる活躍が期待され、後進のロールモデルとなる女性リーダーに対して贈られるもの。大賞1名のほか、大阪サクヤヒメ賞10名、活躍賞40名が選定されます。

「歴代受賞者のみなさんは、大企業や団体の役員や管理職などそうそうたる面々です。そのようななか、看護職の代表として評価していただいたことを誇らしく思います。看護職が、確立された専門職として魅力ある職業であることを、世の中に知ってもらうきっかけになりました」と高橋さん。自身の活躍を情報発信にもつなげているようです。

ココが知りたい

大阪府看護協会の現場

大阪府内に止まらず、全国に向けてもさまざまな事業を実施している大阪府看護協会。多くの取り組みがあるなか、今注目したい取り組みの現場をレポートします。

1 医療現場の国際化に対応できる「日本国際看護師」を養成

労働環境支援事業部

日本国内でも対外国人への医療サービスの需要が増加しています。これに対応できるスペシャリストの育成が急務と考えた本会では、2018年度から日本国際看護師養成研修を新たに開講しました。研修は、外国人にわかりやすい日本語コミュニケーションや、宗教・社会背景など多文化への理解を中心に作成したカリキュラムのもと年2回実施。受講者は周産期・救急・在宅に携わる看護職が多く、2020年度までにのべ106名の修了生が誕生します（予定者含む）。国際臨床医学会の認定資格取得も可能です。日本国際看護師が役割を果たすことで、外国人の方々に不安なく医療を受けてもらえるだけでなく、海外に日本の看護の質の高さを知ってもらうことにつながります。今後はその活躍の場を構築・拡充していくことを目指しています。



(写真上/左から) 事業を担当する松尾慎子さん、板東由美さん、梶山直美さん（現地域包括ケア事業部）(写真中・下) 日本国際看護師養成研修の様子

2 新たな脅威に立ち向かうため看護の力を生かしたい

コロナ対策本部

コロナ対策本部では、主に新型コロナウイルス感染症軽症者等を受け入れる宿泊療養施設とPCR検査の窓口となる検体採取外来への看護職の派遣と配置を行っています。いずれも大阪府からの委託事業で、派遣看護職は本会と雇用契約を結んでおり、看護職の安心・安全とケアの質の保証を図っています。宿泊療養施設は2021年1月19日現在9ホテルで、1施設あたり5名の看護職が日当直体制で24時間対応、4カ所の検体採取外来では1日4～8時間体制で対応しています。これらの看護職に対しては、事前研修に加えて、SNSを活用した最新情報の発信や臨床心理士の資格をもつ看護師によるメンタルケアなど継続的にフォローを行っています。これらのサポートが流動的な状況下での人員確保を実現しています。



(写真上/左から) 対策本部の田中典子さん、千葉鐘子専務、小野恵美子専務、梶山直美さん(写真中) 毎週金曜日のオンライン会議(写真右下) 事前研修の様子

3 「特定行為研修」を通し 看護の質向上を進めていく

教育研修部

本会は医療施設をもたない組織としては、いち早く2018年より特定行為研修を実施しました。看護職にさらなる実践力をつけることで、臨床および地域での看護の質を高めたいと考えたためです。特定行為研修には医師の協力が欠かせないことから、大阪府医師会、大阪府病院協会、大阪府私立病院協会の協力を得て運営委員会を設置。研修のバックアップ体制も整えました。研修は、受講生の利便性を考慮し、2020年度には、演習と臨地実習を除き共通科目・区分別科目ともすべてをeラーニングとしました。各施設や地域において指導的役割の大きい認定看護師と専門看護師を対象として、2020年度までにのべ126名が修了します（予定者含む）。特定行為研修を受講することが、各施設で核となる指導者の育成につながることに期待しています。



iMEP で実習・演習を実施

大阪府看護協会による特定行為研修の実習・演習は、医療研修施設 ニプロiMEP（滋賀県草津市）で行われています。2020年10月17日に行われた研修は区分別科目である「呼吸器（長期呼吸療法）気管カニューレ交換の手技」「呼吸器（気道）経口用気管チューブまたは経鼻用気管チューブの位置の調整」「栄養に係るカテーテル管理」の3演習。シミュレータを使用し手技を確認・修得するもので、受講生は、医師の指導のもと、不明点を解消し、実践のコツを着実に身につけていました。



（写真上）医師により実践的な指導が行われる（写真右）演習には高機能のシミュレータを使用



（写真上／左から）事業を担当する中垣郁代さん、藤井照代さん（写真下）特定行為研修（演習）の受講風景

看護職の声を届けて 「ものづくり」につなげる

本会は、大阪市・うめきた2期みどりといノベーションの融合拠点形成推進協議会の「看護工学課題（ニーズ）発表会」をきっかけに、看護職の声を企業の製品の創出に結びつくることを実感しました。これからも看護職の「あったらいいな」の実現と、看護の課題解消につながる発信をしていけたらと考えています。



（写真上／左から）ものづくりに携わる泉恵子さん、小林勝さん、杉本まゆみさん（写真右）製品になった妊婦用弾性ストッキング



大阪府看護協会

大阪府大阪市中央区城見 2-2-22
<http://www.osaka-kangokyokai.or.jp>

Pick up!

ニュース

大阪府看護協会のオフィスで「シーエルファイン™」を使用

感染対策がより求められる今、大阪府看護協会のオフィスでもさまざまな対策が行われています。個人での感染予防はもとより、環境衛生の保持も重要な対策の1つ。そのなかで、イオンレス™(次亜塩素酸水)「シーエルファイン™」が使用されています。これは、精製水および日本薬局方塩化ナトリウムを用い、ニプログループが製造開発した特殊な3室型電解槽をもつ「無塩電解水生成装置」(JIS B8701:2017に準拠)の技術を中心に作られたもの。水質も同JIS規格に定められている水質基準に準拠しており、室内空間へ噴霧することで、浮遊菌と付着菌の除菌、浮遊ウイルスと付着ウイルスの減少が確認されています。

オフィス環境の安心・安全は、働く人々にとって重要な要素となります。「シーエルファイン™」は、環境を整えることで大阪府看護協会のみなさんの活躍を応援しているようです。



オフィス内に設置されている「シーエルファイン™」の噴霧器



大阪府看護協会のみなさん

医療研修施設

ニプロ iMEP に行ってきました!!

新人ナース
「たのしみ〜」

在宅用のトレーニングルームもあるんですね。

ここでは主に薬剤師さんが研修をするのよ。調剤をするためのクリーンベンチもあるのよ。

こんな感じですかね?

ベテランナース
「すごいね!!」

せつ先輩〜!! エラー音が止まりません!!

一軒家のように、ポータブルトイレや、隣にはバス、キッチンも揃っているのよ。実際の状況に近い形で研修できるの!

コラ! 遊ばないの!

この部屋では、患者さんの状態を細かく設定して、実際の急変時にどう動けばよいかをシミュレーションできるのよ。現場に近い状況で研修できて、新人ナースにもってこいね。

施設 DATA

「医療研修施設 ニプロiMEP」

〒525-0055 滋賀県草津市野路町3023番地
3階建て 研修室数16室

各研修室には最新の同時録画装置を設けており、館内でのライブ配信学習、録画振り取り学習はもとより、WEB回線を用いることで世界中に配信も可能

医療関係者向け講習会のお知らせは下記よりご確認ください
(URL)
http://med.nipro.co.jp/imep_society


